

板橋通信

公益財団法人東京YWCA
板橋センター

〒174-0043 板橋区坂下 1-34-25

tel03-5914-1854 fax03-5914-1852

e-mail itabashi@tokyo.ywca.or.jp

HP www.tokyo.ywca.or.jp/

FB https://www.facebook.com/ywcatokyo/

新型コロナウイルス(COVID-19)から私たちの生活に影響を受け始めて2年が経とうとしています。「板橋通信」の2021年度号では、東京YWCA 板橋センターに関わる人々の思いをまとめました。2021年11~12月にかけて、皆様に原稿をお書き頂きました。状況が変わっている部分もあるかも知れませんが、ご了解ください。発行が遅くなり申し訳ありません。

キッズガーデン



板橋こども動物園に遠足に行きました(年長グループ)



水遊び!



2021年度から始まったにじいろアート



寅の土鈴(陶芸教室)



久しぶりのボウリング(シマウマくらぶ)



にじいろキッチン(料理教室)



ヨガ&ダンス

にじいろ教室

東京YWCA 板橋センターで行っている事業・活動

特定非営利活動法人東京YWCA福祉会

<Y's コート ゆい>

知的障がい・発達障がいの
ある人々の就労支援

<Y's ホーム ハイホー>

知的障がい・発達障がい・身体障がいのある7人の男性が暮らすグループホーム。板橋区高島平にあります。



3階建て
つくい館

<カフェ JOY>
月~金 営業
ランチ(お弁当)

公益財団法人東京YWCA

<ケアサポート板橋>

- ・居宅介護支援(ケアプラン作成)
- ・訪問介護<介護保険・障害者総合支援法>

<キッズガーデン>

- ・療育・相談支援事業・放課後等デイサービス

<にじいろ教室>

- ・発達に課題やニーズのある子どものサポートプログラム

<障がい児「きょうだいの会」>

障がい児の兄弟姉妹を支援する活動

<DAISY(デージー)>

音訳図書、デージー図書、マルチメディアデージーの作成、ボランティア養成

2階建て
板橋センター

<会員グループ>

- ・コール・ライゼ(コーラス)
- ・絵本で遊ぶ
- ・聖書研究会
- ・すまいるY's 板橋(ハーバリウム作り)

年末が近づくと、ご利用者様からは「今年もあつという間だったね。」というお話がよく聞かれます。二回のコロナワクチン接種が済めばもう安心、とはいかなかった一年でしたが、ほとんどのご利用者様・職員の接種が済み、ほんの少し一息つけたのではないのでしょうか。

施設等とは違い、ケアサポート板橋では主にご利用者様のご自宅内で、1対1で密に関わる支援を行っています。「3密を避ける」とは相反するような環境の中、コロナの状況にやきもきしながらも、感染対策を行いながら変わらずにサービスを続けてまいりました。これは板橋センター全体で言えることです。

ご利用者様とともに無事一年をあつという間に過ごすことができたのは、とても幸せなことだったのだと、改めて感じることができました。コロナ終焉までもうひと踏ん張り。心の距離は離れることなく、今後も地域の皆様の在宅生活を支援してまいります。

内藤 美智子(ケアサポート板橋 訪問介護 職員)

私がキッズガーデンに来てから、2年と9カ月が経ちました。

キッズガーデンに来て初めて見学をさせて頂いた時に、子どもたちのキラキラした目と、笑顔で元気いっぱいの先生たちの姿にワクワクした気持ちになったことを今でも鮮明に覚えています。その姿を見て、私はこのキッズガーデンの子どもたちの笑顔を近くで見守っていくことに決めました。

初めて担当したクラスは年中のクラスでした。一人ひとり好きなもの・得意なこと・苦手なことなどが違い、個性豊かで元気なクラスだったなあと懐かしく感じる場合があります。そんな子どもたちはもう小学1年生になり、小学校という大きい集団の中で頑張っていることを耳にするととても嬉しく感じます。

苦手なことが出来るようになる為、また、出来ていることをさらにステップアップさせていく為、キッズガーデンでは褒めることを大切にしています。子どもたちは毎日一生懸命プログラムに取り組んでいます。苦手なプログラムが近づくと「やりたくない」と言う子どももいます。そのような時には、大人と一緒に取り組んだり、話し合いながらどこまで頑張っていくのか等を相談していき、参加できるよう促しています。その中でも、できた時には職員から沢山褒められ、自信を持ち、どんどん成長していく姿に驚かされた印象もあります。

これからも子どもたちの笑顔を大切にしながら、たくさんの方が出来るようになる様、一生懸命子どもたちと向き合っていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

高橋 萌乃(キッズガーデン 職員)

「高齢者」は病院通いと服薬が多いと今まで他人ごとのように聞いていたがまさしくそれが今わたくしごとになっている。いつまでも若い気でいたが、それはもう昔。年を重ねるとアチコチにガタが着実に来ることを、この自粛生活中に改めて痛感！歯科、眼科、内科、整形外科等々にせつせと通っている。

身体がダメなら、せめて精神的に滋養補給し、潤さないと…と美術館、ミニコンサート、読書など文化的な時間を取るようになっている。行くのは散歩も兼ねながら自宅周辺30~40分の範囲だが。

身体のカタを感じたのもう一つ気付いたことがある。この1年半のステイホーム生活があまり、苦にならないということだ。元々外で活動するのが好きと自他ともに認めていたが意外と家が好きなんだと。

自分のペースで過ごせるひとり暮らしの現在の環境も大いにプラスに作用しているようだ。

そんな訳で1時間半かかる板橋センターまでは今のところ、なかなか足が伸びません！！

横田千恵子(会員 板橋会議ほか)



2021年は庭の柿がたくさん実り、1,000個以上の干し柿ができました！





↑センターの植え込みの白い紫陽花(アナベル)は近隣の方も立ち止まる密かなフォトスポットになっています

2021年は、この紫陽花に卵からかえったばかりのカマキリが住んでいました →



2020年の6月に第10回コンサートを開く予定で練習を重ねておりました矢先に、コロナ禍で2月より練習ができなくなりました。マスクが当たり前の、大きな声も出してはいけないということで、歌を忘れたカナリア状態が続きました。いつになったら前のように歌えるのか、という不安に、体力や気力の衰えへの心配が加わって長いトンネルに入り込んで、やっと約2年近くたって、2021年の10月から少しずつでも再開できることになりホッとしていることです。マスクの上にコーラス用のマスクを重ねて、部屋の喚起に気をつけながら、今まで当たり前だった『歌えること』に感謝をしながら、焦らずにゆっくりと、またコンサートが出来ることを目標に頑張らせて頂きますので、今後ともよろしくお願いいたします。

関森紀代子 (会員 コールライゼほか)



新型コロナウイルス禍に見舞われてから2年近くの歳月が流れつつある今、思い返すと、初めは得体の知れないものへの恐怖心から、できるだけ情報を集めたいとテレビ、ネット、新聞などを見続ける毎日だったように思います。ウイルスの実態をつかめたかと思うと次々に形を変えてくる相手に翻弄されている状態は今も変わらず、私事ですぐ人流抑制の観点から委託の仕事もほとんどがキャンセルになり、空いてしまったほとんどの時間は自宅でフィットネスアプリでの体力維持とひたすら読書で籠り続ける毎日でした。

そうした日常のなか、折に触れ近くの公園で1時間半程度のおしゃべりタイムを持ってくれるYで知り合った友人がいてくれたことが、私の大きな救いでした。顔を合わせて、生の声を聞き、笑い、会話ができることが心の健康に一番だと改めて気付かせてもらえたことは、コロナ禍で再確認できた大切な出来事です。

グループ活動”絵本であそぶ”は感染拡大が心配で年に数回しか開かず、責任者としてメンバーの皆さんには申し訳ない思いでいっぱいでしたが、今やっと対面での活動ができるようになってきて、会って話せる時間を持つことは私にとっても、きっと皆さんにとっても意味ある事と思っています。続けて対面での活動ができるように感染対策や時間の工夫など、板橋センター並びにメンバーの皆さんに協力を仰ぎながら、今後なるべく多く開催していきたいと思っています。

久利生ひろみ (会員 絵本であそぶ)



はじめまして、DAISY 音訳グループの川人と申します。

若い頃からの夢だった音訳。東京YWCAの音訳グループに入って十数年が経ちました。板橋センターに伺った事は無いのですが、メンバーの方々とは東日本大震災支援バザーで親しくお交わりいただき、キッズガーデン親の会の制作品の購入などで、繋がっていることを感じています。

数年前からデイジー図書の制作の勉強会をし、試行錯誤を繰り返しつつ数冊の絵本作りに関わりました。新しいことを学ぶ事は、楽しさはあるものの、高齢者には、頭がついて行かないもどかしさもあり、毎月あてもない、こうでもない・・・それでもカタツムリの歩みではありますが前進してきました。

コロナ禍になり、集まるのが難しくなって2年近くになります。そろそろ、再開できるでしょうか？

新しい年を前に、新たな気持ちで、錆びた頭をフル回転させて学びなおし、これからもデイジー図書作りに関わっていきたいと思えます。

板橋センターの子どもたちと繋がっていることを喜び覚えつつ、さらに多くの子どもたちの役に立てることを願いながら・・・

川人美和子 (DAISY 委員会)





『板橋センター庭木の剪定』

私が板橋センターに初めて顔を出した頃、建物は平屋で、庭木で印象に残っているのは、道路近くにあったログハウス(現在の建物新築後は南側に移築)と入口角にあった桜、南側の塀を乗り越えて隣の会社事務所の屋根まで張り出した渋柿、そして珍しいポポーの木です。現在あるキンモクセイは無かったように思います。

センター建物新築のため庭の木の多くが整理や移築され数年間は柿や梅の実の収穫はなかったと聞いています。それよりも残念だったのは、新築後初めて庭を見に行ったらポポーの木が無くなっていたことです。

センターの庭の手入れは、平屋の建物の時から新築後のしばらくまでは、大澤英夫さんを中心にメン手の会の方々がやっておられ、大澤さんが板橋センターから離れた後は、引き続き地元の高橋さんが、剪定や庭の手入れをされておられました。体調の関係でボランティア作業を引退されました。高橋さんは東京YWCA 砂土原センターの庭の手入れもされていたとご本人から聞いています。それで本格的に庭の手入れに行くようになりました。

板橋センター南側に新たな建物(つくい館)が作られることになり、工事が始まる前に、ログハウス(国領センターに移築)が撤去され、脇にあった柿も2本ほど残念なことに切られてしまいました。その後も、毎年秋になると渋柿を収穫しています。干柿にしてクリスマスバザーで販売されており、役立ったと思います。

バザーが終わって2週間ほどする頃に、今度は伸び放題の梅の剪定にかかります。翌春、花が咲くか心配しながら、少し大胆に枝を切り落としています。毎年、何とか花が咲き、実も取れるようで、ほっとしています。今の手入れの難題は大きくなったキンモクセイです。いっぺんに切り込むことができないので、この数年ほど4月初旬頃に切り込んでいますが、もう少し時間がかかると思います。もう2年ほどで、私も引退のつもりですので、それまでに、なんとかしたいと思っています。

だれか後を継ぐ人が出てくれればよいなあと思っています。

栗林菊夫(会友)



2021年の春以降、子どもたちへの感染力も強いと言われた変異株の蔓延により、障がい児「きょうだいの会」の活動は停滞を余儀なくされました。新型コロナ禍が続き子どもも大人もフラストレーションが溜まる中、こういう状況だからこそ仲間と繋がる活動が必要だけれど、今は健康・命を守ることが第一と考えました親同士の情報交換の場「いどばた」ときょうだい児対象の「きらりんこ」はやむなく6月と8月の活動を見送りました。特に久しぶりの「きらりんこ」を楽しみにしてくれている子どもたちのことを思うとボランティアリーダーにとっても断腸の思いでした。11月21日にようやく「いどばた」と「きらりんこ」を開催することができました。こんなにも活動をしなかったのは定期的な活動が始まってから初めてのことです。久しぶりの活動、短時間で少人数の開催としましたが、大人たちは対面でじっくり話し、子どもたちは板橋センター近くの公園で思い切り遊び、それぞれにとって明日への活力を蓄える時間となったと思います。一人ひとりを丁寧に受け止めてくれたリーダーたちも、子どもたちからたくさんのパワーを受け取った様子でした。

活動の必要性和新型コロナの感染状況を天秤にかけながらもどかしい日が続きますが、できる形でできるだけ、活動を続けていきたいと考えています。

五十嵐菜々子(障がい児「きょうだいの会」担当職員)



久しぶりの「きらりんこ」は格別の楽しさでした!



<この通信の内容に関するお問い合わせ先>

公益財団法人 東京YWCA 板橋センター 〒174-0043 板橋区坂下 1-34-25

TEL 03-5914-1854 / FAX 03-5914-1852 (窓口は9時30分~17時30分)

e-mail itabashi@tokyo.ywca.or.jp

URL www.tokyo.ywca.or.jp/

 <https://www.facebook.com/ywcatokyo/>



東京YWCA

検索